

令和4年5月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時	令和4年5月25日(水) 午後1時30分		
場 所	市庁本館3階 議会第2委員会室		
出席者	教育長	伊藤	博章
	教育委員	築瀬	眞知雄
	教育委員	油川	育子
	教育委員	小瀬川	喜井
	教育委員	福井	武久
事務局出席職員	教育部長	石亀	純悦
	教育部次長兼教育総務課長	鈴木	伸尚
	教育部次長	大館	秀光
	博物館長	小保内	裕之
	学校教育課長	熊谷	誠二
	教育指導課長	梅内	太郎
	社会教育課長	三浦	幸治
	是川縄文館副館長	松橋	広美
	総合教育センター所長	河村	雅庸
	こども支援センター所長	佐々木	誠
	図書館副館長	磯嶋	奈都子

開 会

(伊藤教育長)

定刻となりましたので、令和4年5月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、小瀬川委員を指定します。

それでは、はじめに私から、主な会議・行事等について説明いたします。

主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議します。

はじめに、議案第21号「八戸市少年相談センター運営協議会委員の委嘱について」事務局から説明をお願いします。

議案第21号 八戸市少年相談センター運営協議会委員の委嘱について

(梅内教育指導課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

それでは、議案第21号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

御異議がありませんので、議案第21号を原案のとおり決定いたします。

次に、議案第22号「八戸市史跡是川石器時代遺跡整備検討委員会委員の委嘱について」事務局から説明をお願いします。

議案第22号 八戸市史跡是川石器時代遺跡整備検討委員会委員の委嘱について

(松橋是川縄文館副館長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

それでは、議案第22号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

御異議がありませんので、議案第 22 号を原案のとおり決定いたします。

次に、議案第 23 号「八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館運営協議会委員の委嘱について」事務局から説明をお願いします。

議案第 23 号 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館運営協議会委員の委嘱について

(松橋是川縄文館副館長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

それでは、議案第 23 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

御異議がありませんので、議案第 23 号を原案のとおり決定いたします。

次に、議案第 24 号「八戸市博物館協議会委員の委嘱について」事務局から説明をお願いします。

議案第 24 号 八戸市博物館協議会委員の委嘱について

(小保内博物館長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

それでは、議案第 24 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

御異議がありませんので、議案第 24 号を原案のとおり決定いたします。

以上で、議案の審議は終わりました。

次に報告事項にまいります。

はじめに「令和 4 年度八戸市民大学講座について」事務局からの説明をお願いします。

【令和 4 年度八戸市民大学講座について】

(三浦社会教育課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

〔質疑なし〕

次に「調べる学習チャレンジ講座」の開催について、「令和4年度八戸市史講座の開催について」及び「博図連携事業「市民のための歴史講座」の開催について」は、いずれも図書館からの報告事項となりますので、併せて事務局からの説明をお願いします。

【「調べる学習チャレンジ講座」の開催について】

【令和4年度八戸市史講座の開催について】

【博図連携事業「市民のための歴史講座」の開催について】

(磯嶋図書館副館長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

三つの講座について一括して御説明いただきましたけれども、いずれでも結構ですが、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

(福井委員)

先日、博物館の企画展に行かせていただきました。これまでも何度か行っていたのですが、歴史のコーナーを見ると非常に新しい発見があって、大変勉強になりました。それで博図連携事業については二つの講座が来年から一つになるとのことですが、何となく大人向けの様な感じがするのですが、それで間違いないでしょうか。

(小保内博物館長)

こちらの歴史講座につきましては大人向けとなっております。小・中学生というか、大人以外の方については、特別展を開いた際にイベント等を行っています。

(福井委員)

大変すばらしい企画で、本市の教育振興基本計画において目指す教育の姿の一つに「郷土を愛し、郷土とともに生きる教育」というのが挙げられておりますので、是非これからも、小・中学生も興味を持てるような企画をお願いしたいと思います。最近では是川縄文関係をよく目にしたり耳にしたりするのですが、やはり中世から近世の八戸市の歴史っていうのが非常に興味深いものがありますので、是非博物館で、そちらの方も企画を検討していただければと思っています。

(伊藤教育長)

そのほか、委員の皆さんから御意見、御質問等ありますでしょうか。

(油川委員)

私からも博図連携事業につきまして、質問をさせていただきたいと思います。博物館と図書館において重複しているものを一元化したという事業は、様々な面においてとても良いことだと思いました。それで三点ほど質問させていただきます。

まず一点目なのですが、事業概要に「学習の場を効率的に提供する」とありますが、具体的にはどういうことなのでしょう。二点目は、このような内容の講座を受講される方の予想される年齢層と、男女比なども伺いたいと思います。三点目は定員についてですが、各回 50 名なのに対して受付人数を 25 名にするというのはどのような意味かを伺いたいと思います。

(小保内博物館長)

まず「効率的に提供」というところですが、今までは博物館と図書館が行う講座において日にちが被っていたり、近い内容だったりというようなことがございましたので、統合して一緒にやろうということで、今回企画したものになります。

それから二番目の年齢層、男女比ですが、正直年齢層は非常に高く、六十代以降の方が多いです。男女比は私の印象ですけども「3 : 2」くらいで男性の方が多く参加されているかと思います。

最後に定員ですが、今回は博物館と図書館双方で受付をするシステムにしたので、それぞれの館が 25 名を受け付けた時点で足して 50 名になるというカウントになります。

(磯嶋図書館副館長)

開催の内容につきましては小保内館長から詳しく説明いただきましたが、図書館の今までの市史講座における男女比や年齢構成を申しますと、講演の内容にもよりますが、年代は 60 代以上が多いです。男女比ですが、女性が 1 / 3 程度で博物館よりも少し女性の比率が少ないという印象があります。

(油川委員)

一点目の「学習の場を効率的に」ということで、日にちが被ってしまうとの御回答だったのですが、博物館や図書館はそれぞれの特長や長所を持ち寄ることで、これまでできなかったことも実現できるかと思い、画期的な取組ではないかと思っております。双方の職員の皆様の共通理解というものが非常に大事になってくると思いますので、そういったことを意識して進めていただけたらと思います。

それから二点目の年齢層、男女比等についてですが、この連携事業での講座というものをきっかけに、このような分野に対して興味がある方はもちろん、これまで関心を持っていなかった方々に対しても、宣伝や広告の仕方を工夫しながら、年齢も幅広く多くの方に関心を持ってもらえるように実施していくようよろしくお願いいたします。

博図連携事業ということで大いに期待しているとともに、今後はいろいろな課と連携事業というものを充実させていただきたいと思います。

(伊藤教育長)

そのほか、ございませんか。

では私からですけども、福井委員さんがお話した件について、私も大変興味があって、内容が大人向けの講座で、特に今回の博図連携事業の講座も「八戸の藩学校」と題し面白いなと思っています。昨年は川石器時代遺跡が世界遺産へ登録となり、是川小学校での是川縄文館の出前授業を視察した時は、大変子どもたちが生き生きとしていました。また湊地区にできた「みなと体験学習館」には、児童生徒が見学に来ています。さらに御承知のように防災ノートについては、今まもなく三訂が出ます。やはり我々が準備をすると学校ではそれを活用してくれるのですね。

それから、これまで「えんぶり」とか「三社大祭」とか、それから今は川縄文の副読本も出ています。しかし大事な南部藩を中心とした八戸の歴史の分野について、小学生や中学生が学ぶ機会は少ない気がしませんか。今回の講座の講師のように比較的若い方が、この八戸の歴史をお話したりすると、すごく興味を持つと思うのですよ。

このコロナ禍前は、私は毎年、南部藩ゆかりの都市である遠野市へ訪問しています。御承知のように清心尼のお墓があったり、それから町のお寺の名前が八戸市のお寺と同じだったりとても興味深いです。違う県の歴史のある土地では結構子どもたち向けにそういった講座等をやっている所があるので、八戸でももっと小学生、少なくとも中学生・高校生向けの歴史講座等をやってもいいのではないかと思います。

よく南部藩などについて地元紙に連載されていて、いつも切り抜いて取っているんですけども、児童生徒が読むのにはちょっと難しいかなと思います。今、NHKの大河ドラマなどを見ると、若い俳優さんが頼朝をやったり義経をやったりしています。子どもたちの中では結構興味を持って見ている人もいます。八戸の歴史も児童向け、生徒向けにPR方法を工夫して、興味を持ってもらう仕掛けをするとういのではないかと思います。

そのほか、委員の皆さんから御意見、御質問等ありますでしょうか。

(小瀬川委員)

博図連携事業についてお伺いします。時間帯について、開始時間は何時くらいを予定して、どのくらいの講義時間を予定されているのでしょうか。また、例えば中学生などの学生がタイトルを見て、行ってみたいと思った時に、部活動などもありますので、土曜日の午後に開催されるのであれば行けるのかと思いました。さらに、博物館に関して、例えば車で50名が一度に来た時に、一般の来館者と合わせて、駐車場などで問題点等はないのでしょうか。

(磯嶋図書館副館長)

まず開催時間についてお知らせします。開始時間は、各回午後1時30分からを予定しています。講義時間は、講師によって違いますが、大体1時間半程度になります。

(小保内博物館長)

博物館の駐車場に関しましては、砂利の部分とそれからアスファルト舗装の部分、これを含めると50名に対して十分対応が可能で、万が一それをオーバーしても、一時的に向かいの三番堀という所にも車を停めることが可能なので対応できます。

(伊藤教育長)

そのほか、委員の皆さんから御意見、御質問等ありますでしょうか。

〔質疑なし〕

そのほか、事務局から報告事項はありますか。

〔なし〕

事務局からは以上のようなようです。

それでは最後に「その他」ですが、委員の皆様方から何かございますか。

(築瀬委員)

今年度のマイブック推進事業についてはまだ要項とか詳しい内容は出ていないと思うのですが、この事業は今年度で9年目ですよね。9年目ということで、昨年度からも各委員から要望が出ていて、是非継続してほしいという要望については、まずは継続できて良かったと感じています。それから、毎年反省に加えてアイデアを活かしていることにも敬意を表したいと思います。今年度の取組について、昨年度の反省を活かした取組とか、今年度はちょっと特徴的なものを考えているといったものがあれば、今答えられる範囲でいいですのでお願いします。

(梅内教育指導課長)

今年度のマイブック推進事業の改善点は三つほどございます。一点目ですが、注文袋の配布方法の変更です。昨年度はクーポンと一緒に全児童に注文袋を配布いたしました。昨年度注文袋を使用した児童は455名で、コロナ禍により外出をためらう状況でも本を購入できたほか、家庭の事情等で書店へ出掛けることが難しい児童につきましても、早い時期に本を手にする事ができたなどの成果が見られました。

一方、課題として学区内に書店がある場合でも、注文袋を配布直後に使用するなどの事例があり、参加書店から注文袋の配布時期を再度検討してほしいという声が寄せられておりました。そこで今年度は、夏季休業後に各学校に注文袋の必要枚数を調査した上で、必要に応じて児童に配布いたします。更に9月30日のクーポン使用期間終了後には、クーポンを1枚も使っていない児童に対して再度注文袋を配布いたします。このことにより書店で本を購入するという本事業の趣旨を堅持しつつ、家庭の事情等により書店に行くことが難しい児童に対しましても、細やかに支援をすることができると考えております。

改善点の二点目でございますが、注文袋に掲載する本の変更です。昨年度、クーポンを1枚も使用しなかった児童は141名で、令和2年度とほとんど変化がございませんでした。クーポンを1枚も使用しなかった児童の中には、読書を好まない児童や文章を読むことが苦手な児童が少なからずいることが予想されています。このような児童に対しては、注文袋によって書店に行かなくても本を購入できる手段を提供するだけでなく、本を購入したくなるような魅力ある注文袋にすることも必要であると考えました。

昨年度はおすすめブックリストの中から選んで注文袋に掲載しておりましたが、今年度は児童に人気のあるシリーズ本や学習漫画等を多く掲載した注文袋を作成してまいります。このことによってクーポンを使って本を購入しようとする意欲を喚起することはもとより、クーポンを使い切ったタイミングで注文袋

が配布された場合でも本への興味を喚起し、読書につなげることができるのではないかと期待をしております。

改善点の三点目でございますが、クーポンのデザイン及びポスターのデザインの変更です。昨年度にクーポンを1枚だけ使い残した児童は177人ございました。1枚だけ使い残す児童は1,000円以上、1,500円以下の価格帯の本をクーポン3枚で購入するケースが多いことが考えられます。そこで、今年度はクーポンを4枚あるいは2枚ずつ使いたくなるような視覚効果を期待したイラストを入れるなどデザインを一新いたします。クーポンのデザインは、八戸ブックセンターの森花子氏に依頼をしているところです。

また、学校配布用のポスターは昨年度に引き続き古戸杏実氏に、児童が思わず足を止めたくなるようなポスターということをコンセプトに、新たなデザインのポスターを依頼しております。さらに、今年度は参加書店が店内に掲示するポスターのデザインを事業開始以来、初めて一新いたします。デザインは福祉部子育て支援課の職員に依頼しております。本事業は事業開始から9年目となりますが、昨年度の学校アンケートや保護者アンケート、参加書店の声を参考にしながら更なる充実を図ってまいります。

(築瀬委員)

とても期待が持てるというか、すばらしいなと思いました。まず一つ目、注文袋を夏休み後に配布するとのことでした。昨年の反省や学校アンケートの中で、この事業の趣旨を取り違えているような印象を持つ回答がありましたよね。注文袋で注文すればいいのだというような回答です。そこの改善を図っている点がとてもいいなと思います。ただし、先ほど課長からあったように、注文袋の効果というものもあるので、それはそれとして活用するという点も私はとても良い考え、柔軟な考えだなと思っていました。全てダメとか全て良いとかということではなく、成果と課題を踏まえて取り組むというような視点は、とてもすばらしいなと今の回答を聞いて思いました。

先ほどから課題、話題になっているコロナ禍の中で何をしていくかという中で、でもその中において忘れてはいけない趣旨というものがあるわけで、前にも言ったのですが、やはり本屋さんに行き行って、実際に手に取るということとか、親子で一緒に書店へ行くというのは、以前も話がありました。ですので、そういったことが少しでもできるようにという考えを持ってやってもらっているなと感じていました。そういった取組姿勢に、前向きな姿勢に敬意を表したいと思いました。

今ちょっと触れられはしなかったのですが、昨年度の学校アンケートの反省に先生方への負担増があるのではないかといいものもありましたよね。ですから今後はそういった点も踏まえながら進めていただければいいなと思っています。ただ誤解してほしくないのは、この負担というのは必ずあるわけで、何か事業をやるには負担があるわけです。その負担感が「やった甲斐がある負担感」と「無駄だなという負担感」のように種類があると思うので「やってよかったな」「こういう負担してよかったな」という取組であれば、私はその負担感というのは高い評価に値するものではないかなと思いますし、先生方もそう感じると思います。そういった所も踏まえながら進めていただければありがたいなと思いました。

また、注文袋に掲載する本のことで、掲載する本を少し子どもの視点に立って考えようということのように聞いていました。子どもが本当に何を望んでいるのかなと考えることは大事です。ただし、誤解されてはいけないですが、全て子どもの望んだようにやるのが良いわけではないと思うのです。子どもが望まなくても、こうした方が良くというものはやはり大人が教えていくべきことだと思っているのです。

が、それにしても先ほどのような子どもの視点で本を選ぶということはとても大事だなと思うのです。選書というのは、価値観が様々あるので大変なことだと思うのですが、やはり一番この事業で大事なことは子どもの視点だと思うのです。大人の視点というよりは子どもの視点。そこに立ち換えることが大事だなと思い聞いていました。

それから、先ほど学習漫画という言葉が出て、私はとてもいいなと思ったのです。何故かというと、私は本が好きになったり、歴史や人物が好きになったりしたきっかけは漫画なのですね。図書館や学校の図書室に行って、昔流行った学習漫画や偉人伝とかで、すごい興味を持ちました。だから漫画というものは、そういう悪いというものではないと思います。でも十分に考えて行く必要があると思っていて、先程のお話を聞いていて、すごく私は共感して聞いていました。

最後にクーポンやポスターのデザインの話もありましたが、これもとてもいいなと思いました。クーポンはブックセンターの方、書店用のポスターは市長部局の職員に依頼するとか、いろいろな部署と連携していていいなと思いました。今日の定例会の中でずっと話題に出ていたものが連携ですよ。この事業においても連携を進めていくということは、以前から非常に大事なことだと思っていたので、非常に感慨深く聞いていました。それから1枚だけ残したとか、使い切れなかった理由とか、そういったものも丁寧に反省に生かしているなと思って聞いておりました。本に親しむとか、本自体が事業の主体なのですが、ポスターとかクーポンなどもやはり一つの手立てだと思うのです。そういったところから攻めていくことは非常に大事で、クーポンやポスターのデザインが良いと子どもは喜ぶと思うのです。そこで喜べば本にも興味がいくと思います。そういった循環を考えて行けばいいなと思い聞いていました。

私は、本はもちろん楽しみですけど、ポスターについても、今年はどうなデザインかと毎年ワクワクしています。だから学校においてもワクワク感が出るような、今度はどんなポスターが出るかなとか、例えばそんな意味掛けの仕方とか、今回どんな本かなとか、興味を引き付けるような投げかけ方というのも非常に大事だなと思っていました。また、その取組が非常に前に進んでいるようで大変嬉しく思っていました。様々な声を聞いて、連携を深めてまた進めていただければありがたいなと思います。今後の定例会でも、この事業が話題に出てくると思うのですが、何かその時に感想等があればまたお話しします。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。そのほか、委員の皆さんから何かありますでしょうか。

(小瀬川委員)

先ほど、少し防災ノートと災害の話が出たので一言申し上げます。青森県が今年20日に太平洋沖を震源とする最大規模の地震が起きた際の津波による県内の被害想定を発表したという報道を新聞で拝見しました。その中で、冬の午後6時の夕方の時刻に最も深刻な被害が出るのではないかと出ていました。冬の暗くなってからという認識で申し上げますと、例えば「子どもたちが部活動をしている時間帯に万が一大きな地震がきた場合にどうするのか」「小学校において愛好会で保護者の方々が見守りをしていた際に、学校の方針と愛好会の見守りの方と認識が共有できているのか」「新年度になって新しいコーチが入っている場合、その都度きちんと引き継ぎの際に災害対応についても引き継がれているのか」などの対応について考えました。積雪があった場合、暗かった場合、子どもたちが校内のいろいろな場所に残っている場合など、様々な想定が出た際に、果たして今の状況でいいのか、見直していく良い機会になるのではないの

かなと思いました。

正しく恐れつつ「迅速な避難」で被害は7割減るということも書いてありましたので、想定していた以上のことが起こる場合もあり、学校の立地であったり、校舎の大きさ、児童生徒の多さなどの条件が違ったりと様々なケースが考えられますが、新しい年度が始まりましたので、寒くなる時期に向けて現在の災害対応について、見つめ直す良い機会になるのかなと思いました。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほか、委員の皆さんから何かありますでしょうか。

[なし]

閉 会

これもちまして令和4年5月教育委員会を終了いたします。お疲れ様でした。

(午後2時37分閉会)